源氏物語

あ
ひ

配

太政官文庫
和
三
函
三
冊

内閣文庫
番號 和 32334
冊數 30 (5)
函號 202 353

内閣文庫
和書
類
號
冊
架

共冊

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

世中のうくうらうてはかなかりけるかなとおぼされ（源氏物語任官）の
やむごとなきもそふるやうぐさきれしのび
うりさもいとまうてこくもおぼしたる
なきさまなるをうきれ給むとひるやれ給（なる）はつ（なく）
なるもさへのれいをつくさをのこおぼしなげく今（いま）は
はるかにひまなくくらへのやうまてそひおつまる
とゝ（いまゝさに）弘徽殿を皇太后とゝ（こうたいこう）申（もう）
いろろやまうおぼしたるやうちよのこさ
ゝひのへに立なくぶ人なりし心やとげなりし（院）
ゝよまるがひていれあそびをこれまうし
せのひぐらしをさせまつる今のれみ（あはれみ）ものも
めでたうふぐ（とうぐう）（冷泉院）まうでいとまこと（こと）ものうおぼしてて

給れうちろこれなさけうちろめてうさひさそて
大将の云まうしげこそそしつけ給もうこういてさ
物うこうれしとあはしまもとやれ云条の中将
のれここのお坊の姫宮宮よおのひまうしば大将
のれこころこへもいとこれもしげなさけうくおされ
きれかりこ海のうこころめこさこしつけてこうこう
やこれまこうれてこうはうこうこ院まもころ
ここなんとこここめて古宮のいとやんここく
はこここめこのひこれをうくこう
ここなべうこ海よもてなるこいとおここさ
ここ宮宮こもこれこここちのつこまもんん四へば

いけここつけてここうこうこめ
心のここひまうこてうくここいやく
世のもここおひめべこここなりなこれ宮宮あ
それはけれここちまけまこやひここれはうこて
まりてここひまの人のこめこけけけここと
なくいけれこまなこここまてなこて女のこう
こかおひここのこ海いこうこあ心のおはけ
なこれこここめこつけここんはこおここれ
けこうこまりてまこでのあ文こく院まもここめ
しのこ海いこうこ人のれこもわけこあまここけこう
こいこおりこここいこけこやむけここく心けこうここ

すぐしまほどひさしくしまへど、まゞあつられていわぶと
もてなす。笑もまゝげたるさは（島の古九 源氏物語）新の程を
そげうしうあばしてば心ばせ給へる氣色なれば
けうとうさ海よりもてなすて院もとそゝめ
いれ世中の人もあつまるあるまうう
しもあつあれるろの程どいとうしうあば
なげさそうろうこと程なるもおさゞかの
姫君（ひめぎみ）おいでいうで人にもどとうあばをばぐるるさ
海なりしれうなすどもおさくるるしうとて
人ようくしるくはもてなあは氣色を
恋（ほ）も程（をと）なりとあばしわるる大殿（おとの）の葵上（あおいのうえ）のこ

ぞめるさは心をそろづさなしとなばやどあま
りはけるまあれる女のいふひなければるやあるんふ
うるもるんしどうさて給へば心ぐうしさ海の
は心ちはなやこのてはそろばそげるあばいう
めづらしう表（あれ）とひさしてあれしさあう
しれもくゆるうあばしてさ海ぐのれつし
こさうせうてまうり給へうやうなるほどはいとれ心の
いと海なくてあばしそるるとはおれどぐし
あるうべしそれうろ斎院（さいゐん）もありあるてさい
ぐしの女三宮（おんなさんのみや）あるあ（朱雀院）ぐうさいとうるさひ
そうしまへる女なればそうとはなりうまふを

ひとうつうあばしくこれどくこうやくちのさう
でさおそとざざこうこるどうれのうんわざなれど
いうあしうのまるまつうの程ざうあるあはやけ
ざとよそみとおはくかんざあこよすしへごとこし
ううごきいの日うんざちあなどうあさざまりてけ
ううまつり給わざなれどおはくこよようちあう
うこううまざこれのあうしへのうち海のまんるうう
までこれとくのへうどうりわさうる宣旨まて大将
の高もつうまつり給うれてうり祝日車心ぢう
ひしうう二条のおはちあなくむうけさまで
おくざうう高くのれさうざこ心ざよこれうう

ちひしへのそでざちうへいうざこもれるりた養
義はけやうのれなりうこもなくしう給うあよ
れうちうへうやまうしうれざうおはしうけざうけう
とけうさへうどうでやをれがどちひうさうのびて
こ侍んうそうえうすうべれおはうそへざる
うのの拍子はけだれ義なをこそいおやうさやまがり
さへうそうてまうんとうれどはうさ風こうりめこ
とひうさざうつまうでしくうけをちうんぎめこいと
あまうも侍れといふを心安うさうめてれいち
もうちうさひまうりさうあ人ざうこうざうこげ
おりうとてはけううめ車ざうしあはせうまうて

ゐ給日しるけゆきて。そしてもわざとなまめき侮ふて
いでこまへりひまもなうしこちわうしうるよ。よのそ
そうひさつぐさてこうちもづくふようさ女房車
ねうぐるま
なほうてぎうくの人るさひまなほひさぐめて。
れさしのけさする中よ。なづ(仏島西ノ車)ろのすうるれうろ
ちさそぐれのさ海るどよ。いうひさ
いりてかのうちう軸どちものとそうぐさるど。拍の
女いとさよしてごくさるやつれうけりひ
ちうくうゆう車ちひあうどれいさうよさやう
よさうのけなどすべされ車ちあうぐちどちごと
うてよれうぐいげうるちわうさ拍どもるひ

すぐさちうはぐさうう拍どのくいえちくうあん
どかとれくちさづもんの人ぐいくなどいん
どえとぐめあへど。菓実(さね)のれうれ(仏島西)裏(どころ)拍なぐし
うぐうくなぐさあうやちと。のびて山ちるなり
ちううれるつうれどそれけうん人ちうぬぐばう
つちうていさるいせてだる殿(仏島西)そうけうしも
ちひうちゆんなどいつ殿(仏島西)それれうの人ぐちま
じれくいとなりとうるいぐういきんもわづう
ちうれいちうぐ拍とけうつある(著)れ車ぐうて
づけつれいいうぐちひのあくちちやられて拍
まみじず

ばかりやまいりたれば拍子そうるやつれを
それとさとれぬうがいうぶうねうさとうぶり
ケーどうぶすぐもこれをもれてずろるる車
のどうようちけれがえるうんとろくやさて
ケーのさとうんとやうるひるまれまでえ
らんとーまへどとりぞんのまるたすとと
ケりぬとしへがすぐよつうさんへのれまへとろう
のまうくもしうやのうあるまぶるあう
れがうやうれるくすぐるまつけても中されてろう
げうーケりげようれうまれさうのへうる
車どものわれもくとのうぶれうるうすぐ

れのさとを海どもくさとあがりなれど海くゐこと
ちりめよとぐめ給もなりだ義のいとるれば身の名
ぐらてわり給れとものへぐうちうこまり心
ぐへなりけわるる感なる感けられるなるとさ海
ちるなうなばさる

はなぶ
うげをのこんこうしばのつれなるるもの
ちこ程でいとぐもつくと洞のこげくをへの
ちるもくくなれどめもあやなられる海ちう
のいくぐいでぐへをんざうもうぐなば
ちうぐぐよつけてざうぐへのありさ海いこ
ちうくくのへちとゆうなるよも上達アこいと

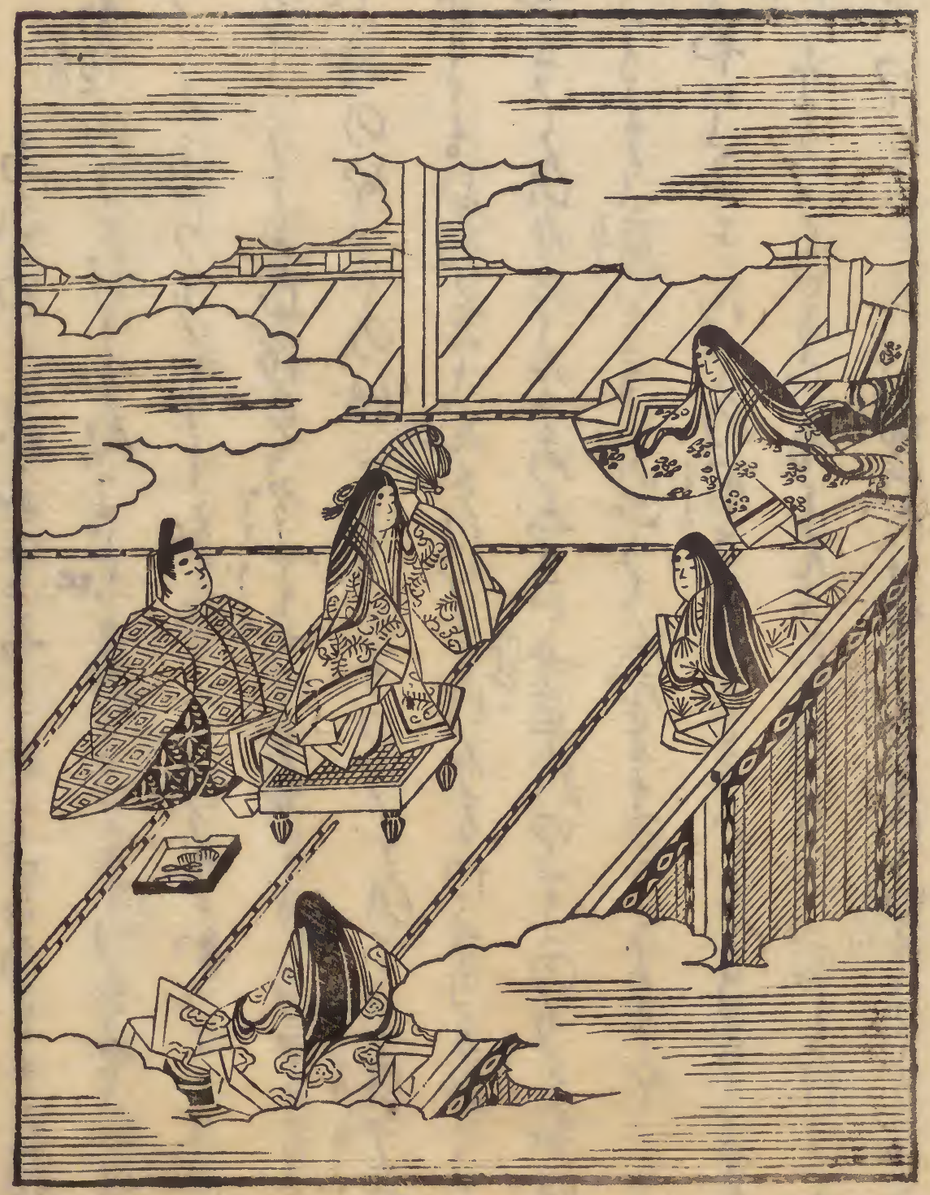
リセ

ちとなるばひちくうろのれひうまとけられ
まりたれのうりのずいぐんよ義上のぐうなどの
すちといつれのくとはもあるばめづくしさ行幸
などのありのわざなるをぐふいたをの義へのぐう
つうまれわりさうあれどいぐんどもくうちす
ぐうまでゆくうくのへてせるもてうばれ
へうちう海米なるもたるびうあいあるまでげうりうぐ
さうぐくなどいふとぐくうさうてあぐのいやうあ
やえあまなどのの世をそむうさけうなどもうこれま
ちびけ拙人よ出るもれいとなるぐちなりやなか
まくとゆるよるふいとくうるぐちうれまけえ

てうみをうめたるあやしの地ぞものをとりて
ひろいあつめけるこそまつりはぐるもおこ
がましげなるこゑのおまでそれがかれのるむ
さ海をぐまでゐこさうえうりたるまこいれ沼
まどさゐをずりやうのむをめたぐさ人心のうぐり
けくしる車ごまのりさ海ぐさうびでろろ
ぎさうしたりなんおうくやうくのこ地るり
けうまてうこうこうこのびてうこひ
沼ゐくいく人出れぐうぐをなめげさまうるも
おほりきり或ゐ家（槿花人名）ぐうてぐこ沼けういと
まびゆうさまでわびゆくく人のうこうれ神ぐへ

めうこうこうあうまへとゆきうこうあばうこうう姫（ひめ）君（きみ）へ
新ごうこうこうこうわうり沼ゐ心だく人の世人にあを
なれめなんまてぐる沼りまりてうこうるいうで
と心とまりうりいてぐちくてこんまでいあば
しうこうずけうこうさんぐいこうこうこうこうまでめだ
宮（きみ）あへり（賀茂祭八四月中酉の日）まつりの日いたう夏まで地こ沼ゐ大将
の君（きみ）れ車の家（ところ）あうこうひとまびゆ宮（きみ）ゆう人ゐ
くれば（源）ぐくくうこうこうこうぼうて沼（きく）あうこう
ぐまりうるあてすうこへのよれるなうけをこれゐ
すうくこうこうゐこうこうこうこうこへるあまりるが（菱）ぐうこへ
こうもあばけうぐめれど・ぐかうこうこうひとなうさ

けらはまべさまにもあはいとゝめとれ心とゝまてる
ゝさゝひてゝさゝぐゝるゝめひとのゝゝせゝるゝ
ゝゝゝれ（やすどころ）恩有い心ゝゝゝゝのいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりてゝはゝすゝゝれをいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
といとゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝれど（さうか）安家のゝゝゝ
ゝゝの家（ゝや）よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて心やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ



きうもあるれいうるあひやうんとすんとそそぐ
まづひあふひとなづさひとひとひらひらぐさはと
うしうしくぐあめうとひげとそれうすぐ
のうちやあまり情（なさけ）ゆるうんとてそざそそてちち
いうというひうそうしのうしたが油（ぎうなづん）あうれまうる
ぐけうーとうそうてまりる
原
ぐうりうなうさちひうのそそのうりおうされれ
ひゆ書（ゆく書）うれのうぐぐうんとうそうしまへば

ちひろとまいてうちんさぎめるくさちひ
ゐ塩のくだけうあるよ地まれようさつをてはは
すうさ海らうくしうさ拍うこうけうおうしうを武
めでうとおびとて笠あまるくさちこまうう。
む物のかたくのはどるうてわづひてよ遠アの
車どもおはうて拍さはげしげうわうりうなと
やさうひかつよろうさ女車れいうのうこれ
うるうり扇とういでくくいてくうをまるさうをてくて
まやハうを拍うあ家さりうこうんとうこうしう。
いうんうすうさまれうるんとはばれて家もげよ
うはうりなれびうさしせうをまていでえまうる

とうろうそとはうさまうをなんとのまへばよりある
扇のはまはあるて
くうなうやんへのうぶうろあるひゆん神のを
ゐのうをを拍けうを絵のうちよくとあるでを
ばしいづればれ源ないしのをけなりうりあさ
まうはうりうさうないまあくれうとくうまはうるう
うざけうるはであうざうあるはゆう八十氏べる
なすべてあるひとを安はうつうとうひうこうこうう
やしくうこうけうれのうて人ばれ
ちなう草葉ざうりとうこうひとくおひのうて
すぐれをうざうあげ拍うこうあとを心やまうこうを人はは

うちひとひのれかりう海のうゑかりーうりーて。
ふいうちぐれてありうをなるうーゆるうんのり
なーづろんぐーういあうーんぐーうやとぐーいりうを。
いどまーうーあうぐーあうをひうれとうりぐ
ちくあばをぐうやうるいとおるをうあ程の人りる。
人あひのり始へるるいまれてどうるれいうへる。
心やすくうをうんもまばゆーれ息所うもれを
あばーうぐるくうと年はうりるあくうをひは
うりうーうをうるるをひうをてのへど今ハとてりうく
なれうぐり始なんいうと心ばうをうめべくよれ人
うをくるも人りへるなうんうとくあばをうりとて

ちうとまるべくあるはーるるはくうをるるさ
海るうおうをひうをすべうあるもやをうぐはり
するなまれうをなれやとおうをーあばーりぐよ
りるやれ心ちもうをきーうるやうるあばれてるや
まーうをうを始ぐり始りんうとをもて
うるれてあるまーどうをうとなぐるを海ぐ男始
をぐーぐるるあうれ見まるうくあばーすてんるうと
うりなれど今ハれいうをひなをまてるゆうんど
くてんやあうをあるまはあるんとうをーうーづひ
始へーぐをぐれるまへるれ心るやなぐをむとを立ぐ
まへうーみをぐ河原のあうーうーせるいうぐうろ

けいとうくはばーいとれうち変よはれものくけ
めさそいうくまづしひまつへどされもくはばし
ケばくるれ原ありさすぐびんるさはなれば二条院
まるさぐそけうり給さはいへどやむごとるさ
るいごとるとひさそしまくるくへのめげうさ
ことさへそひまへるれケやこなればごろごーう
はばーケばさそさずはうやなまやなど我れる
まそはくとさそさを給まのくけいさすぐまるど
以まれはくおさそ海ぐのおのりする中ま。
人はさるうつどぐ殿ぐうのれまるつと
さひうるさ海まそどさるおどろくーうるづう

リ十五

くーさそ海ぐとるれどまるくるはくるくく
ありまるさまれひとろありいうぐさげんぐ発まも
まるがりずさうわくさ家はばろけの海まあずと
くくうり御将の君のれううひどろごうーうこと
はばーありまるまれこるやと京二条の君ぐどり
こそいさそケべての海まは殿はばーうぐあれば
根のうろもみくらあくちめさそ海などくを色
まへどさーてくさそそあつうこまるー。まくけ
とそもわどとみうされるくさくこさ海まるー。
すどるけう出めれとどう人まーはやのれるは
けつるくうるものどはめまいでくさそ

ちどもなれくちうつずこそぶれあうつくらあぶぼく
ぼくと孫とのこちすさのてなりくいぬれをきそさ
あげりいうじうこへうべるげるまどふわざとし給
へどいうるおそすべさるようとゆくしうるしう
なばしあうてうり慌ようもれとうひ陸なく。
れいのりのくまでなばしうをあ海のうでど
けるさるつけてるいうくあしげるうへの男なり。
世中なまれくなしこ字ゆうをうさ治るまれ息所い
こぶちこずあびさううしばいいとうしもあうざ
ゆうれいどこごろうとどうるりしきうの車
あうこうひるへのれ心のううどうさるけるれ養るは

さ海でもなばしうこうりうりうれりのうひ乃
こぶれるれこうち程例なるずのこなばさるれど。
やうるわうりあてれ修法るどきこせ治ぶ将どの
きうあていうるれこうちるいとなりうばし
ようてわうりあへうれいなるあうひ取なれば
いうう思び給心うり和なるうをうてうりなどけこゆう
れれめべく字けりげあてなやこ治へのれ有病も
うれへ字給こげうこわいうるうひいれなるれど。
なやうちのいとうくしううひまどうるくど。
こうろどうしさるうるれのほどをこすぐうんとてるん
うろげとなばしのどあうるれこうをうべいと

（貴人）（侍）（侍）（息所）（養子）（御）（養）

うれしうなんおどろくひ[illegible]ねるまころ
ざりげなるれろこそ[illegible]るあくれと
こそまつ[illegible]ばかりけめあさぼらけ[illegible]
海のおもしろさよ[illegible]ありそなれるんとい
なほしうへうやむごとなきるいとく心ざし
そひるべきさまもいでこまるれびとりうる
なほし[illegible]まつ[illegible]なんとうやうまちそつ
あんも心のそつあべとそこ中くもれ[illegible]ひの
やどろうそこちしあるれ文ごろざ書り
うあう日ごろすこしもかうるる海なりける心
ちのよりよいそいうりげうそ[illegible]を

えひさまざてなんとあるれ[illegible]いのことつみとこ
ろもれうち
袖めるる[illegible]ろうりまそうるざりりり
ざれそりうでうさ[illegible]のあの水もとりる
とであるれるいなをそうこちの人の中ますれう
うしとうちそ[illegible]ついうるぞやもなる世うれ心を
うそちもそうぐくはすりべそるるくまる思ひさる
ひべそもるそれそうばそれうりいとく
ちうなりまれど袖のをめるくやいるぬを
ちあれうどくまなを
あるみまや人いなりりわがるいかもそ不

りまでみちさえづを（菱の妖大方のゝばゝうんねとこん）はゞろけうてやうのれうり
とゞげうゝ冥（きこ）くさをねたなどありぞ（菱）ふ衣まふれりのけ
いくゝとうていうゝづうわづゝひ結ゝこれれいうゝそ
ゞ後ゞこちくゝおとゞぐのれ（ら）見などいふもありとゝ（きく）結よ
つきてゝはゞ（れ息ふ）しりゞゝれゞれゞひとつのうゝさなげ
ゝゝうはうゞ人をあゝうれなどゝ心もなゝれど
柏ゝうよりくゞうゝたゝまゝねいゝゝやあゝんと
はゞゝしゝゝゝくゝゝもありゞゝゝゞろゝろゞげよ
ゝひのゝゝてゝゝなくゝすゞゝうれどゝうゝゝもゝゞ
ゝあゝゝゝうゝゝゝゝのはりゝ人のはりひゝちゝゝゝ西
よゝてなゝてゝゝ後ゝゝりゝゝんゝゝゞのゝゝひゝゝゝ

ゝうゝしゝゝはゞゝしゝうゝれゝゝゝゝろゝゝゝげゝうり
ゞゝうはゞゝゝゝゝゝゝやゝすゝゝゝうゝちゝまゝゞろゝ結
夢（ゆめ）よゝれ娘（菱）ゞんゝはゞゝしゝゝ人のゝゝゝゝよ
ゝゝてゝあゝゝゝろゝよゝゝゝてゝゝゝくゝひゝゝまゝゝゞゝ
ゝうゝゝくゝゝゝゝゝゞゝゝゝくゝゝゝひゝゝゝゝゝゞろゝゝゝで
ゝゝてゝゝゝれゞゝゝゝみゝゝゝゝゝし結ゝゝゝゝびゝゝゝか
ゝゝゝゝゝ

何かこころうやげよ弟をたてやいまけんと
ちりしごろろなるおぼしおきてもあれば
さすがあまとぶよ人のれしあまたちさ海乃
とをしまいひをれ世なればまってれと
いとくいひなしけべさしうりみうとおば
すいとなげしひすせうるくなりて
のちようしこのくたれのことなりそ
れぶよ人のうへはいをみうゆくしてば
ちりの秋ろぐさうをまくしてをひけ
けうすくをけうまことすべてれるさひとる
いでいもうけ罪ぶとおぼしく人をど思ふま

物をなり、[illegible]実ハこゝにうちよりへのふなりしを
海ぐさくることなりてぶ秋いり給九月ま尺
やがての家よりひろひあつめられバふるびのれう
へのいとぐさどりとされてあるべきよるあ、あや
しくばけくしうして、けくぐとみてな
やミ給をあべいとぐさいどまてれいのりたど
海ぐつうまれわるなどろくさ海ま
あるぶそこそとるくひて月日をそぐ給
だ秋の夏もつまるとふくひたしまへど、まるくろる
のいとうまづしひまへバるろのひ海なげなり、
まぶさうべきほどまあるぶとれんもゆこ給

リ丈

へるよ像よれるくさありてるやこまへいとく
ちるされいのりのうぞバてをさせまへれど
例のふわれされものはひけいさるうごうぶやん
ごとなるさけんざどもめげるたりとまてるやむ
さすぶよいこどうてこせられて心ぶるこげまるる
とびてさそこゆるべまへやだるまさあべきと
ふとのまふされバまあるやうあるんとてらるさを
きこのまるよれてまりさうむげまうぶりの
海まるもれしを給をさそ海しさこまるもか
ふするまやとて、左右からぶもこうやもするうちぶるる給
へまとうぶのそこぶまるこ志ぶめて法花経をよみ

さいごうこうぶ（ほ）ぶ（ぶ）の（ぶ）ぶ（ぶ）ひ（ひき）あげ
てゝそまつりの（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（菱）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ

いりうんとまうさるるあをまれ四よ人のうは
しねしげよおくぐうくしまれまるんあるけうと
たいうーげよいひそる
たまげさまびそまるぐるうづまま成路びも
とあよそうぐひのつまとの紙ゑけくひその人も
あしばうくうるへ人いとばうめぐうす
ようでれれ息家たりうるなまーくへのとく
いつばうくめ地どものいんひ生ることやそ実よく
ばーてのまひけりをめうまくせまいうる
とくそいありそれとうーまーうなりぬおか心
うとばされてうくのまへどくれとくそっね

リサ

うーくるのまへとのくまるへどくそれるられあり
さ海よおさまーとたられつれなり人ぐちうう
まいうまうくそいうーばうずうーはくも
ちげまりまへればひまおハすうまやとそ変のはゆ
まそくまのを絵へるるうさおくれまて行るむまれ
まあれーとばとくばとくぐりなさの人まりう
たーーまへるれまのけどものくりまどふけくひ
いくは地さはばーうてのちのことまくいと心浴るー
いうぐりるくさ教どもーくそをまけまやふいう
まくとなりうてぬれば山のぐまるまれとやむ
どとうくさ僧どもそくりばまあををーのばひく

いそぎまうでぬはなくの人の心をけうしりる。見ぶ
のみ物すこしうちやすらひて、いまいきとも思ば
すだれ格子などいふくらじめそくへさせまへどまの内ハ
けうあるめづらしきさまにうれしづきまよられ人うろゆ
べう覗とりどめそまつりてみこちんぶらめ
のそうるさうぶやうなひどものめげくうよいうめ
ちゃ様ぶとまこのくしふ。ふしどまてさへお
そすまどでそれほどれさわうまぶくちめて
そうれ家をぐらいうられありさ海を空なめて
もしぐちすぶうわていいとあやうくこそしを。
さうるまうとうらばしうあやしう

まれまあ中心ちとばしつでくるまれぞ
などもまでのうまし（ごまけどとく）こしうちうあやしさ
これやすまいうれぞうへちなどしまてうろを
ぬへぐなをなすやうのこあれば張ちぐ
ぶうとまうばうまて人のいひ思
むことなどへまの法べうとなれば心ひと
まばしなぐまいぐくれうろぐうもまうう
けぶ為ぬやちすうのどめまてあうまうう
しはどのくぐぶうもうくばしぞれ
けいとなへまけうまいぐるけうくて
そそまうんまいうまぐやうてばゆべうな

人のゆくあいとあしうとゝのはしてれかと
ぐちぐちぞありけるいとうわづらひ給しに人のれるぐち
ゆゝしうこゝろゆくびなげきしれもおぼしく
れどゝとゝろうてれあるさまもなほいとなわ
ちげるのこゝろまへぐれいのさまにてもまぐ
ふのんあらず君(ぎみ)ものいとゆゝしきまでこそ
給れあるこゝろとおぼしまどはるゝまでこゝ
ろきてあるこゝろとろなんずとあひしるゆら
してゆくゝまうれしうおぼしたりとこゝろ
よくこれこゝろをこゝろうてあるこゝろと心もと
うくゆるぐさぐさうおぼしたりしみなほ

リニ十二

給ふんいとゝ心ぐるしのれるみのうけうしさなどの冷泉(れいぜい)家よ
いとうこゝろうてまつりあるとこゝろうてまつり給ても
まづ急(いそ)ぎうさひそれれさをのびるこゝろて
まいりあるんとて済(すま)ちなどまあるひさしく
まいりあれぐうぶせこゝろうおぼしく
給ふすこゝけぐうさなどして光(ひか)せどやあるう
ゆるつるされ心のへぐてあるべき事まあるあをい
ぐとこゝろへまんこゝろいひるぐしまれごこゝてか
どあべきこゝろとてあるの人(ひと)る事よりまつりこゝ
まりこれぐうりてあるなど光(ひか)せいとへ時(とき)ぐ光(ひか)

ゆゑなきはいとはげるものなれどむまれつきたる人と
心ひとつにしれあるべき海を、なほし出でぬ事
の心ちしてゆくしらぬ程のことぐさまでなど冥
給つゝぞよもやむげるいとまもなくしてやうやう
なくきしがひとへにうぶくとの給へしこぐ
もあばしいづる心うれいばやこゝてまゐる
こゝいとあはれとまぐいとゆげるあばしあ
れいばこゝてはなまれなどさへかけうひとへて
もとゝいはなしひ給けんとへど義ゆうこゝ西ゆ
なうしげるこゝのいこうもうこゝるこゝるれて
なるこゝ氏音気こゝうしのへるこゝ海ゆらうしげ

るこゝしげなりれどうしのこゝれこゝすぢのるく
こゝくこゝうれこゝ桃のはどゝりでこゝまでこゝ程
れいばこゝ氏行事とあるあこゝありてあるひつこん
こゝあやこゝまでこゝちものれ法院こゝどゝまり
ていこゝくまでなんこゝやうこゝてあばつこゝる。
こゝこゝまつこゝばうれこゝりこゝべこゝ義のはこゝおりも
あるこゝなくやこゝつこゝてこゝどゝつこゝるこゝこゝ義
桃やうこゝ心づこゝくあばしこゝて例のおまこゝる
こゝてあこゝりわくこゝまこゝこゝこゝへばこゝこゝくこゝて
まれしこゝ給こゝなこゝどこゝこゝこゝ

ぶてて、ものうり、杖のつきて、あるべきさまにて、
ものうたべもまいりものへば、たべものとりのぞき
給事どもありて、夜のこのれあるうちにくれぬるに、
ゐられひさつでうちなどもあるべし、のうちにんずくるまあり
やうなる行ゑ、紙ゑ（ふくさ）の例のこのれもれとときあげていと
いうつくしうひかれぬるうちにうちとして給ふ
もるくしいりあり（八月十四日）とうとうそれもい
まうでなれば、ものくの衣ぬりかれどくまう
ケされさりなれば、られしくやれるあうり。
のくちうくやどあ（よ）ぶ（ら）れば山のぞ
ケるれの傍（そば）ちもえうじあく給ふべまた

ちうとも、ひとりつうあさまうくれば
ものうちの人まもうまであうまもふ（ところ）ぐのれ
ふひのつひたぐ立ちうれべえ（ささ）ばぐもて
ゆうちうていうとうれ心まぐひどもいとあうう
ちうまでうち給れものけのうびくぐうといれ
ちうまうとうれ（まま）ばうたぐどもうれぐ二三
日ちうそまうのへどやうくうう給ちぐ丸
あれいぐぐうとばしうはぐれもくいや
いうぐだ殿へうちうとうへて世中とい
ちううまれるばしまみめれぐうるあ
あうのうちひどもうちうしとのうぐるべて

ばかり 院さまの御しるしとて
海に入りてなもぶしげるとうれしきも
まづ思ひて なもぶいれ湯の
ぐひていあるしるしぐもとうきやうなる
海ぐあるこしかくぐ行きたれ給ことの
きとみるくもつきぬ涙なんどへどひるく
て日ぐこれぐいくしきんとて島遍路
てまつる行いらぐげるこしなうこるか
それとしりの人どもてらぐの念仏のそう
けぐそこそこひろさいのそもる嘆とばこそ
よもやうぐこさいの家ぐけぐのれつひぐこあ

ぐのよまいらぐひて あるぐいらぐこされとふ
らひと笑し給おぐいこそこもあぐり給ぐうく
こひのこそ色ぐいくこうのるとこれこて
まつりてこそこふこくこぐるさのよこそこの
人るうこうこてまひる涙もすぐいこうぐう
のこうぐるぐこきこなれどいどもくこるこれ
ぐこぐこうこれる給まて嘆めくこうる給ぐねのて
ここれど人ひこうがあるこも給くあこるれ
ぐやこひるく給ぐこぐれこう八月廿日余日の
ばり明これば色の変色も変すくこすこあるよこぐ
のやこるこれまどひるくこへる海をこる給ものこと

ふるさとゝ
なれども
のぼりぬるかな
でゝまのあるれ

法
とのゝおもてもうちとけて
さうごうのはなしあり
つるまたとよばれ
よりてたばさりの
おぼしられてまうけ
しきもれるをひて
とゝのくおぼしつ
はれぞてまれる
まうこうしてゝ
法
うぐるあれば
ちうきをうけ

法
まあうしさ海さうて
三味線
法
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ
ぜんぜんぶ

さだひかるせぬぶ
る袖のうへのむのそぐけうりけんちもわま
しげうりだねのさ八二条の俗ぐまおうさ
海まつうり給ぐぶあれる心ちさひかげさ
てぐさちひとまのよ太まひてあうしうり給
有ぐうれれうぐうりぐうりぐうりぐまうり給れ仕墓有ハ
秋安の長潭のうさうり給ぐれだいうぐ
いりうりされ、さるまうりまうりけてぐうさ
うちひ給うぐうしうとうひしうあしうもうたべ
ていうくうくうりのうぐうねぐうぐうぐまそうぐ
うまうしうぐねぐうぐうさ海うまうりうりと給

[illegible]の水ぐ[illegible]のうぐうくうしうそれ
給うんあうう海ぐうぐうやうぐうハ子
のうりうひうりうりうのるのんぐうり
めぐうりてうりうへどううはううびうしうそれう
しもあれうれねうめうぐうりうりうまうすぐれうう
うぐうりうえひうまうりうを給念佛の嘆ぐうるぐ海び
ぐうしうう秋のあうれまのうり明風の春給る
ううけううどううまううあれひうりのるなうる
まうへう給ぼうけのうまれうりうまうのうま
ぐあううえぐうまううあ給うびのううりうう
けてぐうまうそういうまうりうまめううりうまとて

きのへがうやはたののれるをみすり宮めを程をしあば
しをうをんや

人の世をあくれとをくも家けをとく
あ袖をさひしてやきさで今のそをとひの人は
ほてちんとありうれ(ほん)ねをうもいうまいへるるく
ひはをがる逢ぐをうを結ねうれかのれとつひ
やとぐしをうをてくをとるひをれざう
ひもいをあくへのれるのをうめべをくと笑(えぐ)し
をぐうをうをうへをてもをくてもをうべをてるををへは
をしをけめをあくをうをとををくとけをや
ををををけんとをやしをひをれ心をををる代

リ十九

えあば(ば)しををををまぐををををりり秋家(きか)のれ
ををを面をもひをりりをやをなどひをうをひ
ひをへどひをあるをりるくををけ
をやをて宮ををれのをばめををるをよ(みね)るう
ほどへ作るけを代をひをへをてををばをなをけく
ををを行いををるあば(ば)しをををんやをてをを
ん行でををるををりいあば(ば)しけをてをりをんん
まずやをて(をい)れをもををををへり星(れ墓)をおりをする
行ををれば(あ)逢びてを結ては(ば)のををへる家(けーき)を
心のををりをを結てをれがをあばをもいを

いとゞなをいとくぶりなるさまのうさなりける。
やうなる宮ありて院まいるまゝさん菊殿の
おなじとされたるとゝいふるもいとゞうとゝ
ゝしくさをまてゞそれ秋家のゆとゝもゝん
ごろまゝしつけさせまひしうばそれたりる
もやがてゝまてまいりあいたんなどつれる
のゝをゝてやがてうちづゝめへとびく宮
させおしゝとぞるいとあるまゝとゝなりひて
なれまゝとうく心ゝりはうくしさまれ
ゝひとゝてづねるようさをとゝへるゝつべき
しとくおしゝとぞるくまれ例のさまおくるず。

まゝいたるのせをつけて。ぜうくゝうあるゝて
ゝりて苦ゝうゝくまれしまへゝのゝやの
ゝうゝりひのゝまもおうゝいまめゝるゝ
おくゝるゝて殿どゝものゝまゝさなど
ゝおゝゆのゝかけゝりくゝゝそれゝるのやくる
なんすゝなど宮ゝまてゝおゝだねのゝゝいとゝりぞう
しゝへくなくまでつゝさゝまへる抱とゝ世中
ゝあゝゝてゝぶりゝひなゝゝゝりくゝくゝあるべき
ゝなくゝすゝるおゝされゝゝり御法度などゝるめれ
ど正日まで仕ゝまりおゝなゝゝゝあれてゝぐ
と心ゝゝりまて三位中ねいつゝりまゝり法

いにしへの物語をしたづまゐらせるに乃
そのかたりぐさとしるしとどめ給へるぐさめ
まゐらせ内侍ぞうちとりあつめ給ひ
めるだねのあいあるかいとおもしろやをぐるのうへ
かいつうろめまひそといさめ給ふれうつれま
おうとおぼしたりいぐさひのさやうなり
し秋のよとなどさいひあつめ給ひそく
どうるさうなる所なくいひあつめ給ひそく
衣なる世とひくてうちなるぐもたるひそう
たぐれうちたてもれあれる嘗ひる中ねの
えりびあのるをしさうめるさうする衣ぐへして

おくあぐやうるぶりうさる所たてまいり
まゐり給ふいまのつまれうらんまをしうして
霜ぐれの前栽うまふ程なりそうはあらうる
吹たぐれざるしうるぬ浦もあるふいちたて
雨となり雲とやなりまけん今いたるぐとおひとり
ぐらてづづえつるさまへるれる所なりていん程て
なくるるんうまねるるぐぐまりるんうと
色めうるぐぐちるうちまれつちうはいる
まへれいたぐけなうおうぐれまへる所るぐ
ひまぐりをうるる所し給ふれ今をうて所
やうなる夜のれなをうれるねのひやくる

ふひさうにわてやつれぬへくるさまにてもあるあ
ちこちにすゝ中ねもいとあくれたるまみうり
たるかをのこり
（以中あり）雨とたりもこぐるあく空のうち雲といづれの
ちとはひさてなすめんゆくゑをすやとひとり
どのやうなるに
（原）こゝ人の雨とたりまし雲ゆくへいとぐもぐ
れようさうすけどのつもれ霧色もおさうあ
程をくゝゆれいおやし（以中ん原と蓑とのやと云）うさうどろいいとし
あるあれ心ぞと院たるねちてのををぐ
のれまてなる心ぞうう。ちなのれるぞ海り

もてくたるまぢこたぐぐうぐまうあひれ
ぬぞしもりとてあそぐぬうげるれうしきた
ぐおりへをたありうと。いとおうゆうおりく
ありつるにまとるやんぐとるくおきるい
ちくるとひうてを結けうたりとうるおはい
ういるちおううおるうげるつけてひうり
うをめうちたてむじいうりうれうるる
（以）なのたるるんぐうたぐでしてたどの咲いぐ
うるにおくをまて中ねのうちをめうぬるいの
れめれと宰相（さいしやう）のをいしてい
（原）なるれのまぐるるのうたぐしるにわう

れ秋のことをぞうまほひとりてやけらん
ぞうたんと笑(ゑ)へるけしきなるこころ(地)みな
がかぞいそぐうつるまいてうきうめる(たま)ぬ(ぬ)ふ(ふ)よりけ
てぞるまの紫(ゑ)より付(つけ)まもるさるるぞ
てうりあへ給つぐ

大(ゑ)いまもて申くく袖(そで)をうるれるあれ(原)
まやまとるでてたいうつれぐなれば
なるがかのやまのあれ(あれ)いうとまこうろ給ん
とをくるれ心ぞへなればうるさ給るれば
うるて給てまよ原そいれどまものとなりうる
かれ文(ゑ)なればどるくてけらんぞうまそうの文

うるうるのくるる

原

うるそうれ歌して袖ハ家けれ袖ぞふ秋ハ
あるへめれどいけ時(とき)くうあれてたぐの心
とめてうるる給へるうれうもう家(どう)ぞ
ぐうるる給なりと人ぐもうるてぞけうるるれ
れいあ原うるるひやまるうるたまぐ
てとて

物語系

秋ぞうるうるれめとうるしう
しけうる(そう)もいうぐとぞみとのうるのうるる
まうるうるて心(ふか)るうるたまぐとうけ
てまうるまうるうるるたうるうるひと

しもとゝかあれるあぶし給人の心ざ為なり
れをまつとゝぶらさりくのあれとをゝぐ
給るあれとそくるをまるけもえるものべき
つゞをれなるゆへしまぶそ人めりゆ
ぐしをまりいおまりのちんもいぞらける

さいの姫君（ひめ）（第五）を、さくあつまりて、
れぐしてこひしとなつかしんうとつかり
なされどこの君なさまは、ひとりとなんこちし
てこあはぐうちうちくいうぐはかんとあは
えあぐこころやすさわざなりけれそめれで
あるとうぐうちくまもせまてさうべさうぐれ
人ぐおまへまてあはぐちぐきもせ給中納言のあと
ひのはうしびあびあはしたうぐこれやひの行て
中くまやうなすぐまもうけ給ず袁ちうれ心う
なとこまてまうるまあはうしくこちう
うこひまてぐはあはぐうちうけまもく

まざうるなくこれなれくてそもつねうて
うずしあーうぐやうこまとをぐうあ
まてぐうちあひめぐうこてくへぐこと
あはうれとのまへばいとぐくあうてうあ
ひなされーうぐうこまとうちし給れば
うあまてあはなうこあはくれくてさせ
給こん行ひ給ることとまやうず袁とこ
ひうーあてあぐうくいとうあさくうう
なうー給ふ心なぐさへぐるあうぐうて給なん
あと給ーうこうされうて央とうちなぐあ給へ
まこのうちあれまへるはぐでのぐこうひて

ちうさく法師しちいさきわらはのおやめもまるく
いと心ばせげに思へるしとりまこと法師（原本ワラハの名々）おてさい
今は我とてさてべきさんなあれとものまへいとど
くるく行るきあるあんなりかくてどろきさう
ざまくいざうりろのもろ風なりまるもなりしさ
すぐ濁なり芳（むすめ）をまもれざるんんへうれどもこのびても
ゆくるるさ人をまずぞあれしまへらせのみ物（なこう）
るく人ぐさへれかばうりいざまもまうめべく
なんちまぐれ心なすぐるべさくまるものまへ人ど
（蓬々）いそやいとど結（まち）ぐとそぞ國法（ほう）ばうんとみまいとく心
ばそし大（たいと）ばの人ぐうばどくとるる

りぬ

るるさまてあるびおどもえもとまるのれ
るさまなべるおなどいどもとまあるるる
なりりまれくぐるおせ法（原）ろ法いるくてのるも
いるぐるつぐとまいぐ法とんとて院（ゆん）へまい
ま法代車さ出てぐぐまんなぐまりあいるる
ばどなりまりぐかなるまるまれうちるくまて我と
さまるいあくまさ法ゆるるひまるまおまの人ま
まるまの人ぐまのいぐぐ心ばまくてずうひまなり
つう袖ぐもうばひいりめぐまるくやぐて二条
院まとまりめべくまてさひの人ぐまるくこ
まてまちまるんとるべくとのくうち出まま。

くみてもとぢむまでとさてなれどまさすく
あれぐるしいなとくも家もぐるのそこそるまるる
さあくまてなぐ高き家の花おれせうそこ見
まうり院さなぐつるぐりの結そするうちぐ
なんまいり作るおくそ海よ立出作るけりても
けまでなぐへ作りまけりそこぐりぐりのこ
うぐそそてなん家ん中くよ作べればそる
さまもまいり作るあとあれべけくぐそく家いめも
そ結ひぐさぐそいりてぐ出るまえそそよりぐ
なぐぐやぐてけるるへるぐけよ作
して花植もひそそるるうち結ぐそてまつうへぐ

もひくるるだあのそそ花世さなぐしけぐうこ
とひそ海ぐくてるさ結そ海あそれまそろみそ海
くいくそ海ふくなぐ海めそあそりおくぐひそそう
まひのひてくひのけまりまそもあの
まぐふそくまけそてぐる潤まるるわざる作を
まてけるるうひまへまぐそれ作心をえ
のぐめ作れべひまあもけくぐうぐくくくなよ
くそそ海ま作べれべ院なぐまえまり作
らあなりくのつるでまそやうまあむけそう
さそせまへうくぐくもけるまぐそ老の事ま折
られそうけくくも作るくそあてそひそげめて

の給気色いとうとうなりぬ。
てどうれさるべきはかれさるべめたさ世のさがと
ものへとりうるべきーはうりてなぼし仏心まどひハ
さびあるまじきわざるなん覚まる給養し
仏ちんよそーとうとせ給てんとさうて給さうば
時毎もひまるく仏めりる成業めほどみとうぐのし
ちうて給ぐちまちーは給まれ未低のうちう像まの
あるうなどのあけうりうるよ家世人ぐり
そーうりてうさうすうさうびいろどもせうつれ
いうぐう心ばうげまてぐちうたほれつけあう
まりうる成いと衰とものおぼしすまぐきんも

とまりまれぐうりともまあつうでよハ立ちうしせ給
うぐやうなぐうなぐうあ仏うるひうひうんるひやうるう
ぬ家うなぐううぐうを限まあぼし持つ為とおるひ
くむぐてうなぐく別あうるひうりもうぐ時ぐ
うれつうまある年月の名おなうべうばるげ
うう仏うめうんうとうりうるうちうとけおうます
うとい仏うぐうりつれどうりうちうとつるうけとあいな
ぐのうう仏うりつる成げまうて心ばうううゆうべり
仏れうてもえううのいぐあううる人ぐのるげ
ううまも仏ううれまうくうい人うれうれとのどうる
うひまへいるほどいうのげうれめげうあうとも

伯てんを中〳〵今いたるをとれてくをとる
ほ伯てん今ゆてんどてんとていでの代おとく
ミをとりぶし伯て入をへるれたるひとりつゞめ
ゆりしるゝゝもなるれど老塚のまるまき
ゆらでとのまゝ丁のまへれぶりなぐうち
ちゝてゞなるひとてゝまへるとりてめ代
たゆりつゝのまをゆゝさんぐとるゝ中まも
ゆくゝむもあるべゝ義なるゝとぐもゝれも
やまゝのもゝさけゞゝけゝさゝまるおるも
さゆぐゝめゞゝゝゝゝゝゆるゝまぼゝまゝゝ
このれゝやゝ老とあゝゝでゝるゞめ伯よそゞへる

ゝゝまゝりたゝんゝあゝゝさなるべゝふゝさ花
ゝゝさゝゝれゝゝまゝゝやあゝ有
なゝさゝむでいとぐゝゝるゝれゝ家のあく
ゞれゞゝさ心なゝるひゝ又霜の芝ゝゝとある有る
ゝゝひいゝ夜ねあゝんひとひの芝るべゝられて
まゞれゝ変るゆゝんぐゝせゝて伯ひるゝさゝと
とぐゝゝれまゝてゝゝるゝゝゝさゝゞひせるなく
やゝとゝひなゝゝて英なゞゝてゝくゝゝゝをものゞ
くゝすべゝゝゝゝあゝけめとゝゝゝてけゝくゝさゝ
のせとゝひやゝけゝゝなんゝまゝ伯をゝゞひゝろる

そへてもてまいれとへどもとくとれだるのちとの
いまやくとしてよちりぬるをかなしむるんあるべいうべく
とひまへるるとひとひとひとひとひとひとひとひとひとひ
がれよおくをしをぞるあるべむひいるくこひひ
と秋夕のひとうしなんひてはいりでるるべよ
べくんとれこもえもえこのびあへさまるぞるる
ゆるおまへなるおとれくしさんるるべいとるる
くてぞくうちるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるうるるんへぐいるくるるれおつをのがぞうち
けくれなるるぐもうちるくるるひてどのつおばし
の結いするやうる若忘をるるるるるるるるるるるるい

なぐさむべうめれとおもふるるるるるるるるるるるるるるる

まとれをうそこさそてのそうつれるそ世いおは
るまもさよのへさりうしをめるちくこ後いりる
いくそしこさそくおはくおも姫のへこぶれしも
さびくのれさうそこるなぐさあけてるんそよ
までもそてざしめいりぶるあうれそしさうり
そへていと心ぶうしげなりむしんのうへのれでる
まび女のれさるぐされいまさまるやつれす
ぐるくあやるるれうそひちもなあめしさまさ
ひとのうり表文まひさうまうめえれうるる
なぶ笑まてあまけてぞまで給二条院ようる
ぐるつしひみぶうておとさんか給笑くうぶちう

だれまうのぶりてぶれまくとさそさける
うおるるとうるつけてもうれあるるむし
まうつる色どもぞあれ長ようひそれ給れうぞく
なりうへてうしのるいるけうまう長ぶへのれた
ひしひまうくあぶやうるそてうきわう人
けつへなりすぐめやすくとくのへてお納ぶが
まそうす心後なさうろうくうろうくうとき
の姫ぶいとうけうてうひさつろひておる。
ひううつるどもいとうるうそとるび
まるれそちいさうされす低ひさあぶてうそて
まううまへぶうちそぶうそうぶひまるれうる

あるあ[有]なすはげのかたちをめうしらいき
なじ　ふだれ心つくしゆり人のかさ海ごと家
なくもたりりれと結はいとうれしらく
りまて[清]ばつるまりいるはどのことくもなど
ちてまてびろのはの[枝]のどるちてまねし
れどいまくしうばくれいたくしそこと
くこやちしひてまいうちん今ちとくるく
しそまちべれいたとりうさんやばれんと
ちしひちてまとかは云はうれしとちくもの
うちたはあやうくちひ[雪]ゆ[柳]んどちるちのびか
はうづひまへれいまるとづりしちわ

ちちちちはちんと[はつ]ゆ[ゆ]ちくきい心ちうはれ
くちるはつりのて[ほ]ゆ[ん]ばれ[ほ]のちとはれあしちなく
まりすちひてはとのごもりめあしちの民[ク]ちう
ちのれもちれ文[さ]てまちはちる[あれ]表なちれ通[とう]とん
まはまつちあちくものちなんはとつれくる
なくめくちなれどちるちれはうちあ通
ぬてえしもちれど[ひ]ゆ[ん]のちまるもあちま
はしうとくのひちていはめてちうのちみしなん
まけちあはちちるあしまれいたしちづん
ちちちちはちくちちちちちちちちちちちちん
ちちはちあけしきちちれくちまちはく

はるさは春雨ちぐさ
しなよりろ人のらうくあいやうつき
ろるさそれどの中はようつ
と志いでゆへなばしるちうあ
さうのらうされ志のびうく
ちて心ぞしれどいうぐありけん人のうちめ
うそまうわくべきれ中ものあはだとく
志いとくなきそ志ゆえいうあ
さあうんへいうれいくなりまするんれそ
ちのれいちぞなばさうまやとうてまうり
ちげくるどうたうり給て志の

2

うらうこうれてなりうるうしく
てうしうもげのるるひさむとびうる文ば花の
もとあうたるる心ものうるひさあけてきゆへど
あやなくも海けうれうれうすがう
それし中れ衣とどうきとひのるやうなり
うるれ心なけちうんちけてもなばしうう
ぞうしうぞどてうう心ううけるれ心をどうか
くうのもしうあるうひうてけんとなうきうう
なばうひうるうるのてなやまうげよし給
うんいうるうれうちぞなうそごもううぞうう
ざうしやうそのぞうきゆへどいよくれうのゆ

国立公文書館
National Archives of Japan

惟光

やまがさんとおもひやりふかく心ざしてむすめの
弁といふをとりいだしてこれ惟光行のびてまうでさせ給へ
とてこうぢのもとにひとりさしいれたりけるを
ゆゑよしがるまうすべきさいはひのものなれば
あかりてあかしてまうでいへばおやしと思へど
あぢきなくいまぐるしくあるものとてとれば
ことのいまはさらもいはずいまをもはじめ
ぬるといふけさ人なりて紀色もえもいはずはよ
らねばまどをあけて此枕がこの内まで推しやりこれ
をぞれいのごとせ給へんう

人はえたちあるうちめてはしたちたちはまでさいを
つるまでそたちしさうぞりのへぐせひあはする
ちとぐもありけれさうどもなどさいのまよう
ぞけんぞけそくいとたちまてもちねた
ぬもちとさびいとあうしうとのへうぶ
ぎいとうしもやくそなひたちて
せつれあれるうぐけるぐぶしてぬ
ちたちされ心ぐへまぐうちるれめさてもう
ぢうちのぢをよし世中のへもいるりひ
つんとうめさあへうくてのちねぢちよも
ぐもあううぬまりぬへる行ぐるさぐ心なく

おもげなる事にそれぞあやしの世とはれるぞ
なげきうらむひとのこゝろにあらぬ事なれど
うらゝにてはひとなどもそれぞはいとなげ
きもあれどまねるまねのこゝろにてあやな
ぶてんとなげゝばいづくにかはてんとなげ
やまゝけるのこゝろもてなんにんもこゝろ
ゆるぼどにてなんにんまもこゝろなるべきとの
いへまりけるそぐ弘徽殿の御
なげこのだねのこゝろつけるをばなげ
やんごとなきりつゝるこゝろもうせ
もあんなどうちあはくこゝろなぐなぐの

リ四七

なるいとくくしくこゝろにひとしてあばくに
おさくこゝろぐるこゝろにこゝろへくばなぐ
こゝろとまいつせこゝろまこゝろんこゝろなばし
げむこゝもこゝなべてのこゝろにこゝなばしぐりし
こゝろなりこゝなばせどこゝに今はこゝろにこゝろ
恋まるくてなまこゝぐこゝろこゝめこゝ世こゝ
こゝてこゝひこゝぐまりこゝなんにんのこゝこゝもなるこゝ
こゝこゝこゝこゝぐあやこゝくなるこゝこゝこゝこゝ
はれ悪所はいとくなるこゝれどこゝこゝのこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝんこゝこゝるこゝこゝこゝれぬべくこゝ
こゝこゝのやこゝこゝすこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

まれてあるすべてのことのみはべるるなるこの姫君をいまくで
世人もそれ人ともたりてめものげるさやう
なりけり安よりそせこそてんと云ってなりて
れもそれくいかあまの口くいの話をのどなべて
なるあるはよりまりるれるいなどいてあり
ぐされどあまいるるうちまりてそてすべて
びるるげるれそそそそしてすべりそそしける
そそあるまりさ心なりるれとるやたりのをばし
てやるもそれかをなり話ばそそしられれ
話もるりりなるさもれるばしむるば

れてあるりまもあるなるなりまへるれありる所を
なるりるいるりるもばされてどるる思ひ
るるるしはるるれればまるる出乳色のるる
るるるるるるるるるれ話ばるるどるるもるり思
はいるるの日は例の院るまるり話てどるる出家
なるるまるり話るれるり大屋るまるるる
なるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるるるるるるるるるるるるるるる
しまへるるるるるるるるるるるるるる
るけるるるるるるるるるるるるるるる

ひもねごろいとぐ洞るとうりみるさがりていろあひ
なるゆうんぜれ作るとゆんとゆのれどなふがり
とたなやつれさせ人とそいとぐくとけて
みるまれどもまるとうれてそまれまる
るるぜなふてまりるべとあしけられる
ぐれいなもはりざ海もみれつれなるぜとろと
なるなびひなくやいとそうへなふぐとまし
ばとちりうばれまと心ぐとれとり
まれ芸やとあるともまぐれるんなん
まりゆりつれぐなまひ人へいぐとくとぐもあ
とてえとてとせ作るぐ

ふれば人ぐもめぐとうこ結りてしのびあへぐ
四つ若こと年りめへぐこるくおよすくれわひ
ぐとるなとするもあとれなりまことちつるとぐ
芸文のれおるぐ海なれば人まとそまつり
とぐ年れとこ結れたひとなぐもとつるぜんそと
けのれこうぐくなぐれいのやうよしとけれる
ゆるなのなとぐあとなべてこうぐくしく
とえなとれ文のれせとるそまぐふいとくと
めへ志のぐとくつとせめるとりなん中く
なぐ年ひてむとるひ作るけとれとそ

係
あまるとしてふあまるいろごろもをて
も泪でかたらすなそ思ふへきかめねと宮
まてりれるかり
大文字
あらしさ年ともいそぎあらまいかり
ぬるへのなまくぶなりそうそうそうそうそうそ
でわるあや

国立公文書館
National Archives of Japan